

2024年 JASTRO 小線源部会 学会報告

メールマガジンをご覧の皆さま、こんにちは！

当教室が5月に主催しました JASTRO 小線源部会についての報告です。

当日たくさんの方にご参加いただきまして、誠にありがとうございました。

今回、参加してくださった群馬大学医学部医学科の学生さんと初期研修医の先生（計5名）より、学会の感想をお寄せいただきました。

また、婦人科腫瘍小線源治療のハンズオンセミナーを担当された熊澤先生からもコメントをいただきました。

当日の学会風景とともに、是非ご覧ください！

《大会概要（おさらい）》

学会：小線源治療部会第26回学術大会

テーマ：「つなぐ、つながる小線源治療の未来」

大会長：大野 達也（群馬大学大学院医学研究科 腫瘍放射線学講座 教授）

日程：2024年5月24日（金）・25日（土）

会場：G メッセ群馬（群馬県高崎市岩押町12番24号）



（左）開会の挨拶にて。

（右）群馬の名物のひとつである高崎だるまに目入れを行う様子。マジックペンを持つ大野教授の手に気合いが入る。

《参加者からのコメント》

【医学部医学科5年 小島 和 先生】

小線源治療分野で行われている研究は勿論のこと、群馬大学で活躍されている先生方が全国各地で放射線治療を引っ張っていることを実感しました。今回は貴重な会に参加させていただき、とても良い経験となりました。

【医学部医学科5年 對馬 凧紗 先生】

小線源治療とAIについての最先端の研究に触れさせていただきました。先生方に基本的なことを教えていただきながら、群馬大学の先生方がどのようなご活躍をされているかを実感し、大変貴重な経験となりました。

【医学部医学科6年 内田 大輝 先生】

今回初めて学会に参加させて頂きました。学生レベルでは理解するのが難しいと感じるセッションも多かったのですが、例えば小線源治療を口腔がんに対して用いるなどの知識は聞いた事がなく、興味を持って聞く事ができました。他にも同級生の高橋さんが症例報告をしているのを見て、いつも一緒に実習している友達がこのような場で発表しているということに刺激を受けました。1日目の終わりの懇親会では日本を代表する先生方とお話をする機会をいただき、貴重な経験をする事ができました。自分は放射線治療に興味を持ってこちらの学会に参加しましたが、小線源の未来の話をお聞きし、さらに興味を持ちました。

【医学部医学科6年 高橋 彩夏 先生】

小線源治療学会に参加し、最新の治療技術や臨床研究に触れることができました。特に「組織内照射併用腔内照射が有効であった巨大腔癌の一例」について発表させて頂き、参加者の方とディスカッションする中で、経過を観察し工夫を凝らしながら照射をすることが個々の患者への最適な医療提供に繋がることを実感し小線源治療が奥深い分野であると感じました。素晴らしい機会を頂き誠に有難うございました。



要望演題のセッションにて発表を行う高橋先生。忙しい臨床実習の合間を縫って準備・参加して下さった。当日も実習を終えてからの発表という驚愕スケジュール。

【群馬大学医学部附属病院 初期臨床研修医2年目 深堀 修玄 先生】

放射線治療科での研修中に学会参加でき、日頃ご指導頂いている先生方が学会でどのように活躍しているのかを、ハンズオンセミナーや講演で知ることができました。自分の中でも臨床現場と学会が「つながる」体験をしました。ありがとうございました。



学生さん、研修医の先生に
多数ご参加いただいた。
若手からベテランまでが
一丸となって盛り上がりました！

《スタッフからのコメント》

【当科助教 熊澤 琢也 先生】

先日、日本放射線腫瘍学会 小線源治療部会 第26回学術大会が、大会長は大野達也教授であり当科は主催する側として行われました。テーマ「つなぐ、つながる 小線源治療の未来」で、様々な形でテーマを意識できるコンテンツがそろっていたように思えます。

私個人としては、安藤謙先生のもとハンズオンセミナーに携わったことが一番大きな経験となりました。ハイブリッド腔内照射は、どのような線量分布が必要かをイメージし、そのためにはどのようにニードルを刺入するかを考え、実際に線量分布を作成する作業が不可欠です。これらの要素は座学だけで身につけることは難しいので、面と向かって手技の方法を伝えられる機会は非常に重要です。今回のハンズオンセミナーでは、できる限り手を動かしてもらうことを念頭に準備を行い、全国の放射線治療医の先生方に刺入からプランニングまでを行っていただきました。参加された皆様が積極的に取り組んでいただき、群馬大学で考えるハイブリッド小線源治療において重要なことを伝えられたのではと思いますし、ハイブリッド小線源治療のさらなる普及につながればうれしく思います。

当科の婦人科腫瘍診療を率いる安藤先生・熊澤先生を中心に、本学会で最も力を注いだコンテンツのひとつであるハンズオンセミナーの風景。腔内照射モデルや実際の治療で用いられる小線源ニードルなどを通じ、当科で行われているハイブリッド腔内照射を肌で体感していただいた。



以上、参加者および主催スタッフの声とともに学会を振り返ってまいりましたが、いかがでしたでしょうか？

本学会開催にあたりご尽力くださった皆さま、ご参加いただいた全ての方に、この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました！

(取材：入江 大介、田村 翠)

